

5月

学校だより かがやけ

野々浜小学校

かしく うつくしく たくましく

2009年(平成21年)5月30日

文筆：竹友義満

人とかがわり 心を育み 心をつなぐ

一人一鉢の様子

花がら,とらん
といけんよ。



今日は,水ほし
がっているよ!



~さんの花にも水
あげとくね。

花とお話をし,友達と関わりながら,責任を持って花を育てようとする子ども達。

靴の整頓の取組み

自分のくつは,きちん
となっているかな?



友達のは,どうかな?
きちんと そろえて
おいてあげよう!

「自分のことから 友達のことへ」と意識を広げることができた子ども達が増えました。

学習の様子から



「自分とかがわり」



「友達とかがわり」



「みんなとかがわり」

友達とかがわり,「同じ意見」「違う意見」が聞けるから,学びが深まります!

*この他「あいさつ」「一斉遊び」など意図的・計画的に「かがわり」を仕組みなおし,取組みを進めています。

「自分とのかかわり発」「友達・異学年とかがわり」「生き物・自然とかがわり」「家庭・地域とかがわり」「自分とのかかわり着」で学びを深めるため,スタートを切り,1学期の折り返し地点を迎えました。

* 教師の見取り力が問われます。

ただ、かわりを持たすだけでは、児童は育ちません。その様子を教師がしっかり見取ることが大切です。「進んでやろうとする姿」「正しく判断したこと」「出来るようになったこと」をしっかりと見て、評価してやるのが大切です。また、教師の姿が、手本となります。「廊下を走ってはいけない。」と教えながら、教師が廊下を走っている姿を見せたのでは信頼をうしないます。学校では「教職員」、家庭・地域では「保護者」「地域の人」が手本になります。

案外、言っていることとやっていることが逆になっている場合があります。たとえば、「ていねいな言葉遣いをしなさい。」といいながら、周りの大人が乱暴な言葉を使っていたのでは子どもは直そうと思いません。社会に出て苦労するのは、子どもと言うことになります。「学ぶ」は、「まねぶ(学ぶ)」「まねる(真似る)」と同じ語源です。小学校は、まだ「まねて、学ぶ時期」と考えます。

不審火から学ぶ

* 今回の不審火を受け、学校では次の3点を指導します。

火気の取り扱い及び危険性、失火・放火は罪である。

校内の授業以外での火気厳禁と校外での火遊び禁止。

未成年の喫煙は、法律違反ある。

* 家庭でも、4点を確認・教育して下さい。

ライター等、子どもの手の届かないところに保管する。

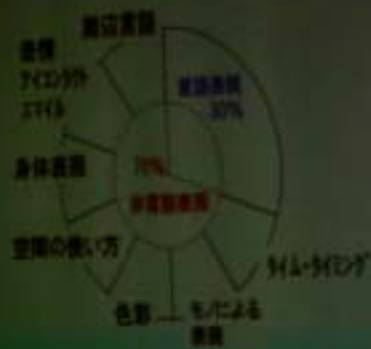
テレビ等で火災のニュースが報道されたら、その機会に火災の恐ろしさを教える。

子どもが火遊びをしているところを見たら、その場で火災の恐ろしさを教えて、火遊びを止めさせる。

子どもが火を扱う年になったら、正しい火の取り扱いや消火方法について教える。

児童が、ちょっとした遊び心から、罪を犯さないように学校・家庭・地域で協力して教育していきましょう。

【自己表現の構成要素】



「自分をどう表現するか」佐藤純子 1995 (講談社現代新書)